

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立県小学校

校長 酒匂 秀人

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- ① 開かれた学校づくりをめざし、地域・保護者とともに協働できる学校にするために運営協議会を設置し、様々な視点からの意見や考えを交流しながら、地域コミュニティづくりを推進します。
- ② 教育活動を学校評価に基点を置いたものとします。そのために、これまでの学校関係者評価をより充実させ、改善に努め、保護者や地域の方々の思いや願いを反映した学校づくりを推進します。
- ③ 学校支援をはじめとして、様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域とともにある学校」の推進を図ります。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

《地域連携花壇》

学校の正門両脇にある地域連携花壇は、学校・地域・保護者が協力して維持・管理をしています。今年度も6月と11月の年2回、全校児童と保護者・地域の方々と、約2000株の花の苗を植えました。定植の準備として、環境ボランティアの方を中心に土を耕したり、肥料を入れたりなどたくさん準備をしていただきました。定植は1年生と



6年生が一緒に行いました。地域連携花壇の定植をはじめて経験する1年生に対し6年生が手を支えて一緒に花を植える姿に周囲の大人たちも温かい気持ちになりました。日常的な水やりや草取りの作業は5・6年生の栽培委員会の児童や保護者、地域のボランティアの方が行い、花壇は一年中きれいな花で包まれて道路を歩きかう人たちの目を楽しませています。

《学年人権活動》

本校では各学年で子どもたちと保護者が一緒に人権について考える学習を行っています。今年度の各学年の取り組み内容は以下の通りです。

- 1年生：ジェンダーについて考えました。
- 2年生：人権カルタを作成し、親子で遊びました。
- 3年生：インターネットの正しい利用について考えました。
- 4年生：SNSの利用の実際について学習しました。
- 5年生：障害のある方との関わりについて考えました。
- 6年生：インターネットモラルについて考えました。

これからも日常の教育活動において、子どもたち同士が相手の気持ちを思いやり、誰もが居心地の良い学校になるよう、人権について考える学習に取り組んでいきます。

(2) コミュニティスクール（学校運営協議会）の取り組みによる効果

今年度、12月に実施した保護者アンケートにおいて、「学校の教育活動に満足していますか」の質問項目では94.6%（昨年度より+0.2%）の方から肯定的な回答をいただきました。また、児童アンケート「学校が楽しいですか。」の項目に「そう思う」「まあそう思う」と回答した児童の割合が96.8%と昨年度より0.9%増加しました。

学校運営協議会は年間5回行われ、委員の皆様からは『学校だより』や『ホームページ』等で子どもたちや学校の様子が詳しく発信されており、情報がよく伝わってくる。「コロナ禍で減少していた外遊びに力を入れてもらえたことは、子どもたちにとって良いことなので継続していただきたい。」「子どもを地域で育てる意識が希薄化してきている中、学校・家庭・地域が協働できるような取り組みに期待したい。」等貴重なご意見をいただきました。児童が保護者や地域の方々に温かく見守られ、さらにより良く成長し、県地区のかけがえのない人材になることが期待されていると強く感じました。



3 今後に向けて

今年度はそれまでコロナ禍で制限されてきた教育活動が徐々に再開されるようになってきました。その中でも特に、地域の方々がゲストティーチャーとして授業に参加していただく機会が増えたことは、「地域とともにある学校」をつくる上でとても意味深いものがありました。来年度も学校運営協議会の委員の皆様にご協力をいただくとともに、学校が保護者や地域と連携を図りながら、教育活動を進めることが大切です。そして児童一人ひとりの思いを大切にして、お互いに認め合える学校づくりをめざしたいと思います。